

郷土の財産

# 畑屋兔

美郷ブエスタで見かける、とても大きなうさぎ。あの白くて大きなうさぎが通称「畑屋兔」、日本白色秋田改良種です。在来種に改良を重ねて大型化し、日本白色秋田改良種と命名したのは畑屋村農業会（後の千畑町農業協同組合）を中心とした人々でした。

秋田県仙北地域でうさぎの飼養が始まったのは明治24年。食料用・衣料用として飼養が盛んになり、飼養者が増えるにつれて全県規模の品評会が開催されるようになりました。品評会では、大型のものや体型の美しいものが評価され、畑屋地区では毛並みが美しく大型のうさぎの改良に力が入られました。昭和14年から昭和39年までは、秋

田県種苗交換会の正式出品物にうさぎが加わり、畑屋地域の飼養者が育てたうさぎは高い評価を受けました。その後は、全国の愛好者からの買い付けが相次ぎ、畑屋兔は国内のさまざまな場所で育てられています。

しかし、残念ながら現在は飼養者数が減り、一部の熱心な飼養者の手によって畑屋地区での種の保存がなされているのが現状です。「このままでは約100年をかけて作られてきた大型ウサギが姿を消すのも時間の問題」と指摘する声もあります。

美郷町では、毎年ラベンダーまつりの期間中に畑屋兔に直接触れることのできるコーナーを設けています。先人たちが努力を重ねて現在にもたらしてくれた畑屋兔に触れ、これまでの歩みに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



高橋清一さん（外川原）は、現在20羽の日本白色秋田改良種を育てています。畑屋兔についてお話を伺いました。

「昔はこの家庭でもうさぎを飼ったものでした。現在とは食料事情が違い、肉でも野菜でも塩で保存した食品が多かったため、新鮮なたんぱく源として貴重でした。うさぎは他の動物に比べて虫が寄りにくく、衛生的です。エサも家にある野菜で足りるので、子どもでも世話がしやすく飼いやすいものでした。童話や童謡にもうさぎの登場するものが多く、いかに人間との関わりが深い動物だったかが分かります。

最近では生活環境が変わり、うさぎを飼う家庭が減りました。以前は学校でうさぎの飼育を薦めたこともありました。今はありません。生活に密着した動物だったはずが、遠く

離れた存在になっってしまったことに寂しさを感じます。

県内を見渡しても、動物の名前に土地の名前が付いているものは、そう多くはありません。秋田犬や比内鶏など、数えるくらいではないでしょうか。畑屋兔もこれらに並ぶ価値があると思っています。

しかし、この伝統ある畑屋兔も年々飼養者が減っています。地元の人々が苦勞して改良し、現在まで受け継がれてきたのですから、今後ますますと在り続けてほしい。私は、出来る限り長く飼養を続けるつもりですが、このまま若い世代の飼養者がいなければ、そう遠くないうちに畑屋兔が無くなってしまおうのではないかと危機感すら覚えています。

美郷町のみなさんには、畑屋兔のことをもっと知ってもらいたいと思っています。歴史ある畑屋兔が、美郷町の観光資源のひとつとして再び脚光を浴びる日が来ることを願っています。」



「点訳奉仕者とは、あらゆる出版物を点字に訳すボランティアのことで、点字図書館で行う養成講座を受けて資格が与えられます。点字図書館が選書する図書（点訳のほかに、利用者（視覚障がい者）の希望を受けて、取り扱い説明書や電話帳など日常生活に必要な活字の点訳など、プライベートサービスも行います。

今から30年前、教職を退職後、園芸や編み物、裁縫などをして暮らしていました。何かもの足りない思いがあつて、世の中のお役に立つことができなかつたかと考えているとき、テレビで、点訳講座が開かれることを知り、すぐに問い合わせをしました。

奉仕者に認定されてから、県南の旧3郡市の同志が集まり、「ほたる火の

会」を結成し、個人ごとの奉仕のほか、目の見えない方々の希望を伺い、料理のレシピの点訳を始めました。さらに、料理教室を開いて、春・秋2回ずつ25年間続けました。

ほかに、小・中・高校などからの要望を受けて点字指導を行うなど、点訳奉仕を通じて、たくさんの方々との交流を持つことができました。そして、昨年は全国首老人福祉施設連絡協議会から「太陽福祉文化賞」をいただきました。全国の点訳・音訳者の第一号として驚くと同時に、誰かのお役に立ってこれたことを大変嬉しく思います。

何事も好きでなければ長続きしません。点訳は自分の好みでない本もたくさん読まされますし、自宅で余暇を利



長続きの秘けつ  
高橋 禮子さん(天神堂)  
秋田県点字図書館 点訳奉仕者

用できる奉仕です。ただ、自己満足にならないように、利用者のことを考え、その人たちとの交流を大切にしてください。おかげさまで昨秋は秋田県社会福祉事業団の理事長表彰もいただきました。

一昨年前からは新しいことを始めました。県の芸術祭に応募しようと思立ち、自分の体験にもとづいた童話を書き、昨年「児童文学」で奨励賞に入りました。

また、月に一回の百人一首の集いも楽しみのひとつです。点訳奉仕は一人でもできますが、カルタは、お相手が必要ならば遊べません。会員は皆高齢になり、徐々に少なくなつてしまいましたが、できる限りは続けたいと思っています。」

## 秋田県点字図書館

秋田市土崎港南3丁目2番58号  
☎018-845-0031 FAX018-845-7772

身体障害者福祉法により、目の見えない方々に点字・録音図書などで情報を提供している図書館。点字・録音図書の貸出のほか次のようなサービスを提供しています。

### プライベートサービス

電化製品の取扱説明書など日常生活に必要な資料の点訳・音訳資料を作ります。

### 複製サービス

個人のための蔵書、資料等を複製します。